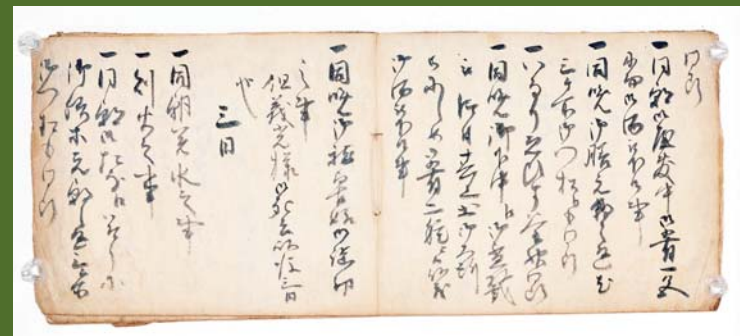


武士として、人として

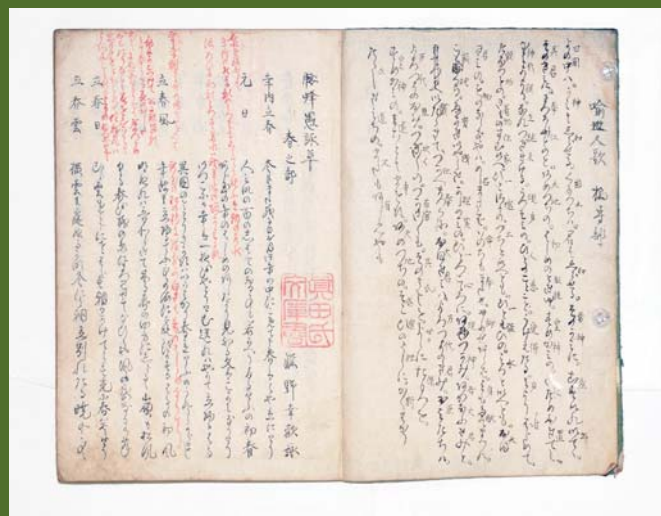
江戸時代の武士の多くは武道や教養をたしなんでいましたが、これは単なる趣味や自己鍛錬のためだけではありませんでした。例えば、九代当主喜平太は当時最新の西洋砲術・高嶋流の相伝者でしたが、それゆえ藩の兵制洋式化を任されるなど、身につけた技能によって藩職に就いたり昇進のチャンスを掴むことがあったのです。資格や技能がものを言うのは昔も今も変わらないようですね。仙台真田氏の歴代当主たちも、様々な武術を学んで免許を得たり、謡（能楽）や和歌をたしなんだりしていたことがわかっています。



風伝流鎗術目録 文政5年(1822) 八代当主幸清が学んでいた風伝流鎗術の目録で、習得した技名が並んでいます。



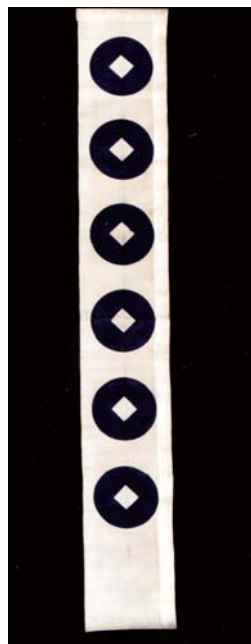
年始御規式牒 宝暦9年(1759) 四代当主信経がまとめた真田家の正月儀式の覚書です。二日に「同晩御稽古始御謡初之事 但義光様御死去以後三日也(正月二日の晩に謡の稽古を初める。ただし辰信死去後は三日になった)」とあり、代々謡(能楽)を嗜んでいたことがわかります。



腰蜂愚詠草 弘化2~安政6年(1844~1859) 九代当主喜平太の短歌集で、100ページに及ぶ大作です。喜平太は藩政にたずさわる多忙な身でありながら、茶道、華道、詠歌をたしなむ教養人でもありました。

仙台真田氏の名宝

—真田家に伝来する真田幸村の遺品たち—



六文銭集合旗



采配(幸村公死持)



鉄錆地和製南蛮胴具足



打刀 銘 盛高 永正5年(1507)

展示解説リーフレット

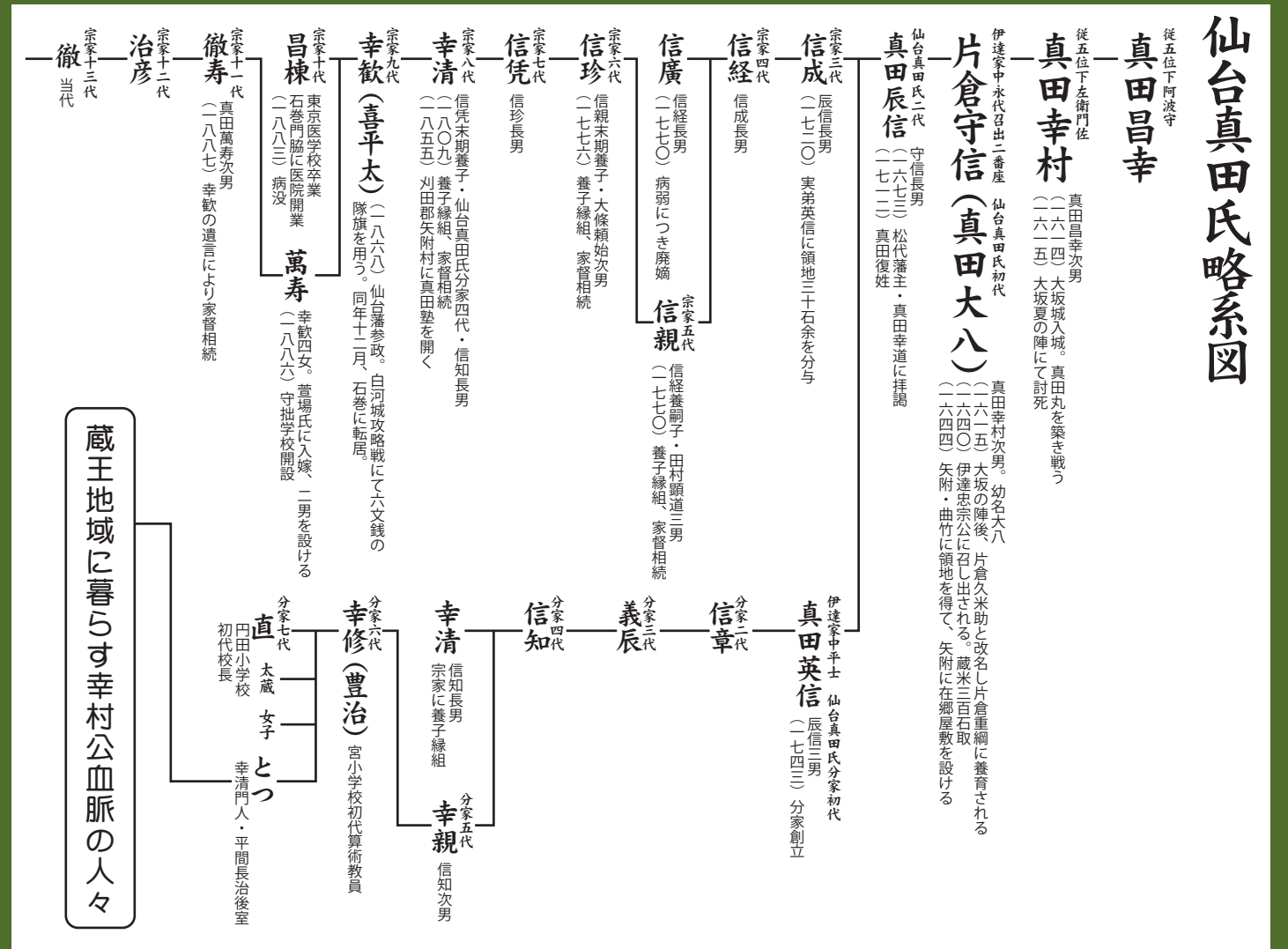
特別展 仙台真田氏の名宝5

伊達家臣 真田家

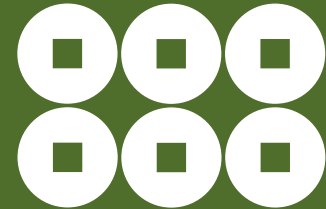
—みちのくに生きた真田幸村の系譜—



真田幸村 肖像



仙台大真田氏宗家九代 真田喜平太幸欸 肖像



仙台大真田氏初代 片倉守信(真田大八) 肖像